

木材加工 本棚製作ルーブリック

製図	目的・目標	製作物の完成形を具体的にイメージし、寸法や構造、加工方法を正確に図面に表現する。
	評価規準	<p>A…製作物の全体像が正確に表現されており、各部の寸法が正確に記入されている。第三者が見てもすぐに構造を理解でき、加工に必要な情報がすべて網羅されている。</p> <p>B…製図の基本ルール(寸法線の引き方など)は守られているが、一部の寸法が抜けていたり、線の引き方が不明瞭な箇所があったりする。(簡単な修正で加工に着手できるレベル)</p> <p>C…製図の基本ルールが守られておらず、寸法や構造が不正確である。また、この図面だけでは加工に着手することが難しく、大きな手直しが必要である。</p>
けがき	目的・目標	設計図に基づいて、加工する位置や形状を正確に材料に写すことができる。
	評価規準	<p>A…設計図と実物の寸法が完全に一致し、切断線と仕上がり寸法線が明確で正確に引かれている。また、けがき線が垂直にひかれている。</p> <p>B…設計図と実物の寸法にわずかな誤差があるものの、問題なく次の工程に進める。切断線と仕上がり寸法線も比較的明確である。また、けがき線が垂直ではない。</p> <p>C…設計図との寸法に大きな誤差が見られる。切断線と仕上がり寸法線が薄かったり、不正確だったりするため、切断や加工に影響が出る可能性がある。また、切断線と仕上がり寸法線の3本が引けていない。</p>
切断	目的・目標	のこぎりなどの工具を安全に扱い、切断線に沿って材料を正確に切断できる。
	評価規準	<p>A…仕上がり寸法線からはみ出ることなく切断できている。工具の正しい使い方を習得している。切断面をやすりがけを行い、きれいに仕上がっている。</p> <p>B…仕上がり寸法線からはみ出しているが、組み立てに支障はない。切断面をやすりがけを行い、比較的きれいに仕上がっている。</p> <p>C…仕上がり寸法線からはみ出しており、組み立てが困難である。切断面が粗く、作業中に危険な工具の使い方をしている箇所が見られる。</p>
組み立て	目的・目標	切断した部品を正確に組み合わせ、接合することができる。 くぎや木工用ボンドなどの用途を理解し、適切に使用できる。
	評価規準	<p>A…部品同士の接合部分に隙間がなく組み立てられている。ねじやボンドの使い方も適切で、工具の正しい使い方を習得している。</p> <p>B…接合部にわずかな隙間があるものの、外観や強度に問題はない。ねじやボンドの使い方も概ね適切である。</p> <p>C…接合部に大きな隙間があり、外観や強度が不十分である。ねじやボンドの使い方が不適切で、やり直しの必要性が見られる。</p>
仕上げ	目的・目標	仕上げ作業の重要性を理解し、丁寧な作業を通じて完成度を高めることができる。
	評価規準	<p>A…やすりがけが丁寧に行われ、表面にざらつきやささくれが全くない。塗装もムラがなく均一に塗られている。製品全体の完成度が非常に高い。</p> <p>B…やすりがけが比較的に丁寧に行われている。塗料が塗られているが、一部にムラや塗残りが見られる。製品としての美観は概ね保たれている。</p> <p>C…塗料に明らかなムラや液だれ、塗残りがあり、不十分な仕上がりである。</p>

